

次年度事業について

次年度事業について

自然生態系への影響分科会

- 「自然生態系への影響分科会」の開催
 - ・ 分科会で、アクションプランのフォローアップを行う。具体的には、アクションプランで掲げた「データのプラットフォーム」及び「人のプラットフォーム」の場として分科会を活用し、広域で優先的に取り組むべき調査対象、影響分析や将来予測等を踏まえた適応策の検討等を行う。
 - ・ 年2回の開催を予定。市民参加型モニタリングの調査時期を踏まえ、5-6月、1月以降を想定。
- 適応アクション「データのプラットフォーム」及び「人のプラットフォーム」構築の実施
 - ・ データのプラットフォームについては、以下を実施。データの格納・掲載は、国立環境研究所が整備したA-platを活用する。
関係する機関が実施する調査データの共有・可視化：堅果類の豊凶とツキノワグマの出没に関するデータ
市民参加型モニタリング調査の実施・とりまとめ、可視化：セミをターゲットとした市民参加型モニタリング調査
 - ・ 人のプラットフォームについては、分析を行う研究者や関係機関とのマッチングの検討等を行う。

流域圏での水資源管理分科会

- 「流域圏での水資源管理分科会」の開催
 - ・ 本年度作成した冊子の活用を通じて蓄積された知見の適応計画への反映等の検討
 - ・ 適応計画の進捗や研究成果等の情報共有及び気候変動影響適応策を地域間で連携・協力しながら検討・推進していくための広域連携の体制構築の検討（知見蓄積や情報収集共有の場の継続のための仕組みづくり等）
 - ・ その他、水資源管理の適応に関する検討

地域での脆弱性・リスク分科会

- 3カ年の成果の横展開・普及フェーズへ
 - ・ 手引き書作成を終えるため、来年度以降の分科会の開催は行わない。
 - ・ 手引き書を活用したワークショップ開催や実績に関する事例の共有・意見交換等は広域協議会の中で実施していく予定。